

全国各地で「ニューメンバーズの集い」を開催中！

ニューメンバーズ・サービス委員会では、各地域会がそれぞれ趣向を凝らした「ニューメンバーズの集い」を開催している。今月号では6月に開催されたTKC東北会・TKC関東信越会・TKC四国会の開催内容を紹介する。

東北会よってかたつて座談会（TKC東北会）

■とき…令和8年6月5日(金) ■ところ…TKP仙台青葉通カンファレンスセンター

講演と情報交換会が行われる

TKC東北会では、ニューメンバーズサービス委員会主催「よってかたつて座談会」が開催され、東北6県より、高橋喜晃副会長、高田哲也ニューメンバーズサービス委員長をはじめとして、39名の会員が参加した。

また、特別講師としてTKC静岡会の多々良信彦会員を招き、「関与先拡大

——高付加価値事務所を目指して」と題した講演が行

われた。



多々良信彦会員(TKC静岡会)

具体的には事務所承継後の13年間にわたる取り組みや、今後のビジョンおよび戦略について、NM（ニューメンバーズ）会員に向けた熱意溢れる内容となった。主な内容は次の通り。

①当事務所の一番のこだわりは「黒字決算割合」であり、その割合は74%に達している。その実現に向けて、税理士の4大業務の同時提供が最重要と考えている。また、事務所承継当初は職員の残業が非常に多く、疲弊感が見られる状況であったため、半年ごとに方針を変えなが

ら、事務所の成長と働き方の改善に取り組んできた。

②関与先拡大においては、「月次かつ自計化での契約」が重要。

見込み客との面談では、事務



所方針書と、料金表を用いて事務所の価値を伝えるよう意識している。あわせて人脈作りとして、金融機関への勉強会開催提案や、無料相談会への積極支援に努めた。

③営業ツール、職員採用の観点から、HP（ホームページ）は必須と考えている。NM会員が業務品質で大規模事務所に対抗するのは容易ではないが、HPの品質を高め、優秀な職員を採用することは可能。求職者は必ずHPを閲覧するので、動画も活用しながら待遇や働き方を常にPRしている。また、採用後は育成プログラムに沿った研修受講により、「3年で15件」の担当を持てるように支援している。さらにTKCシステム活用によって業務の標準化が進み、属人化を防ぐことにつながった。また、当事務所では税理士試験休暇、有給休暇の連続取得を推奨しており、担当者不在時の「交代制度」を導入し、職員が安心して休暇を取得できる環境づく

りに努めている。結果として業務のさらなる標準化の促進にも寄与している。

講演後はそれぞれグループに分かれて情報交換会を行った。各会員のお悩み相談や、講義を

受けて事務所経営に取り入れたこと等について、さまざまな意見交換がなされ「よってかたつて座談会」は盛況のうちに幕を閉じた。

(東北SCGサービスセンター長 根岸祐太)

ニューメンバーズの集いin宇都宮 (TKC関東信越会)

■とき…令和8年6月12日(金)～13日(土)

■ところ…ホテル東日本宇都宮

「TKC関東信越会ニューメンバーズの集い2026 in 宇都宮」が、ホテル東日本宇都宮にて2日間にわたって開催された。

当日は増山英和TKC関東信越会会長をはじめ、89名の会員、未入会の税理士、公認会計士が参加した。

初日は小澤元一TKC関東信越会ニューメンバーズ・サービス委員長による開会あいさつに続き、増山会長による「TKC全国会の事業目的と会員事務所の経営戦略——月次巡回監査の断行と税理士4大業務の完遂が事務所発展の基礎となる！」を

テーマとした基調講演と、3名の会員による「開業体験座談会」、参加者グループディスカ



増山英和TKC関東信越会会長による基調講演

ッションが行われた。

事務所経営の答えはTKCにある

増山会長の講演は経験談を交えながら「事務所経営に関する答えは全てTKCにある」と解説。

開業座談会では、パネリストの開業からこれまでに取り組んできたこと等が具体的に紹介された。2日目はTKC中部会ニューメンバーズ・サービス委員長の中村友悟会員を講師に迎え、「TKCと共に歩む、事務所成長の『正解』——拡大・採用・育成を軌道に乗せる実践ステップ」をテーマに講演が行われた。

中村会員からは関与先拡大、職員採用と教育、事務所体制の構築について、自身の経験談、実際に取り組んでいること等が具体的に解説された。

また、関与先拡大については、新規案件の70%が紹介（関与先・他士業・金融機関等）であることに加え、特化型ではなく

「普通に、真面目に」を貫くことが最も差別化になると説明された。

採用については、AIを活用しており、育成については所長の判断基準を文書化（ガイドブック）し、職員の心理的安全性を守っていること等が具体的に説明された。

中村会員の講演後、氏家健二TKC関東信越会共済制度推進



委員長による「共済制度活用のご案内」、角能一徹TKCサプライ事業部長による「事務所通信デジタル版のご案内」があった。最後に支部ごとに分かれて内容の振り返りが行われ、2日間にわたるスケジュールは大盛

況のうちに終了となった。参加者からは「事務所方針を作成する重要性がよく分かった」、「TKCの運動方針を一つずつ実践していきたい」などの感想が寄せられた。

(栃木SCGサービスセンター長 金子輝一郎)

ニューメンバーズの集いin徳島(TKC四国会)

■とき…令和8年6月12日(金)～13日(土)

■ところ…ザ・グランドパレス徳島

「第37回TKC四国会ニューメンバーズの集い」が開催され、ニューメンバーズ会員および未入会の税理士を含む30名が参加した。

TKC方式の自計化推進が重要

初日は渡邊洋一TKC四国会会長による講演から始まり、基調講演では、KFS実践に向けた具体的事例が紹介された。

池田陽輔会員(高知支部)による講演では、事務所運営における人材育成や制度整備に加え、



TKCシステムの徹底活用、さらには金融機関との連携による

関与先拡大など、実務に即した取り組みが共有された。また、浮田知希会員(香川支部)による講演では、「事務所方針を明確にした上で段階的に取り組むTKC方式の自計化を着実に推進することが重要」と実践的示唆が示された。

講演後には、ニューメンバーズ会員による実践宣言書の発表が行われ、各自が今後の取り組み方針を発表し合い、実践に向けた意思が共有された。

2日目には、蛭沼真会員(愛媛支部)および大久保宏二会員(徳島支部)による基調講演「開業奮闘記」が行われ、開業間もない立場ならではの課題や工夫が語られ、開業に至るまでの経緯や準備、直面した課題や、試行錯誤の実体験が共有された。

続いて、2日間の振り返りとしてディスカッションを実施。参加者相互の意見交換を通じて学びの深化が図られた。参加者からは、「実践事例が事務所運営に直結する内容であり極めて



有益であった」、「TKCシステムの徹底活用により付加価値業務の可能性が広がることを実感した」などの声が寄せられた。

当イベントでは、四国会の会員が講師を務めることにより、参加者にとって身近で実践的な内容となり、今後取り組むべき方向性を整理できる有意義な機会となった。

(四国SCGサービスセンター長 坂 祐希)